

平成26年 水稻収穫後ほ場管理のチェックポイント

- 来春の乾土効果を引き出すために、根雪前のほ場管理を徹底しよう！
- 5つのステップを実行して、乾田化を実現させよう！

ステップ 1 稲わらの搬出



- ◆ 稲わらは貴重な資源です！ 搬出して堆肥や飼料などに有効活用しよう！
- ◆ 稲わらの野焼きは、煙害（健康・交通）や産地への風評害の原因になるため、絶対に行わない！
- ◆ 堆肥化して施用すれば、窒素の後効きを抑え（低タンパク化）地力維持効果大きい！
- ◆ いもち病発生ほ場では菌密度を低減できる！

ステップ 2

溝掘りで表面排水の促進



- ◆ 溝は落水口につなぎ、表面水をほ場外に流すことが重要。
- ◆ 表面水の除去により、融雪後のほ場作業開始を早めよう！
- ◆ 乾田化により、乾土効果を引き出そう！

ステップ 3 心土破碎の施工



- ◆ 心土破碎施工のコツは、「ほ場が乾いている時に、できるだけゆっくりと行う」

ステップ 4 あぜの補修



- ◆ 冷害危険期に、最大20cmの深水管理ができるしっかりとした畦に補修しよう！

ステップ 5 土壌診断の活用



- ◆ 高品質米の安定生産には、施肥の適正化が必須。
- ◆ 過剰施肥をなくし、肥料コストの削減を！
- ◆ 土壌分析値は、3~4年間は有効。（無機態窒素を除く）